

塩屋で チンドン（1）

文・松本徹

1950年代半ばのこと、塩屋谷川河口域に通称発電所（跡）と呼ばれている空き地（今はマンションが建つ）があり、子ども達の遊び場になっていた。また、夏には青年団による盆踊り大会が催され、仮装踊りなど盛大であった。そこにある日、丸太とベニヤとムシロで芝居小屋ができ数日興行するのだとか。これの前宣伝にちんどん屋が塩屋のまちを練った。ちんどん屋といっても、別に雇われたものではなく芝居の役者がちんどん屋を演じているにすぎません。ちんどん屋はつじ辻で口上を述べ、夜に演じられる芝居の呼び込みを行っていた。鳴り物は、ちんどん太鼓があったかなかったかは不明ですが、笛と三味線が中心で、5人ほどであったと記憶します。これが私の、塩屋のちんどん屋がお目見えした初めであったと考えます。おっちょこちょいの私は嬉しくて楽しくてちんどん屋に同道したことは言うまでもありません。そして夜には木戸銭の20円だったかを握りしめて座布団を小脇に抱えて芝居に興じていました。※当時の子どもにとって20円は大金でした。うちは親が商売をしていたので託児所のつもりで持たせたのでしょう。そのころ子どもの通貨は5円が中心で1円あれば駄菓子屋で買い物ができるのです。50銭硬貨があってそれで大きなどんぐり飴が1個買えました。10円玉を持たされると5円のお釣りををもって帰ったものです。10円はお札もありました。ちんどん屋はその後絶えて、50年を飛ぶことになる。（つづく）



塩屋的商店探訪 vol.9 文・サラ・デュルト

喫茶 ティンカーベル 「はっきりいえば、すいていることがとりえだから。」

好きなレコードを聴いたり、本を読んだりするためにこの場所を借りたようなところもある。ある意味、自室の延長。窓から塩屋のメインストリートが眺められ、店主の好きなものに囲まれてゆっくり居心地よく過ごせる2階の喫茶室。

やや急な階段を上がって扉を開くと、グリーンと白を基調とした店内には、向かい合って座れるテーブル席が5つ、計10席。かつて美容室時代に付けられた電気コンセントが多くあるため各テーブルに保温器が設置され、コーヒーと紅茶はポットで提供されるので、2杯目も温かく飲める。これも、ゆっくりすることを促す工夫のひとつ。壁には西野通広さんの塩屋のまちを描いた版画や、飯川雄大さんの写真などの作品が飾られている。いずれも、2014～2016年に開催された塩屋のまちの文化祭「しおさい」に由来。息子の健一郎さんは「イチからではなくゼロから初心者に寄り添うギター教室」を開いており、高齢者同士の交流など地域のコミュニティのひとつになれたらと考えている。原則として、月に2回は土日にアマチュアギタリストによるコンサートが催される。ギターレッスンが行われるときは早めの店じまいをすることもあがあるが、基本的に毎日開いている。ご自身も音楽を聴くのが好きな店主の鈴木さんは、学生時代にジャズ喫茶によく行った。当時はレコードもプレイヤーも高価で、とても自分で揃えられるものではなかったので、喫茶店で好きなレコードをかけて貰

い、コーヒー一杯で何時間もいるようなのがざらだった。和歌山の出身だが、父親の転勤で引っ越しが多く、東京に10年近く住んでいた。そのせいか、鈴木さんには関西のなまりはない。大阪府庁に就職して、仕事仲間と何度か六甲登山の出发点として塩屋を訪れたことがあり、大阪に通える場所だと知り、1980年代末、塩屋北町の開発の最初期に移り住んだ。店をはじめたのは10年前、公務員を退職してからのことだ。店名を決める段になって、犬の名前にしようかと、初めて飼った犬「ジュリー」や次の「バロン」を思い浮かべたが、どうもしっくりこない。結局、建物の2階にあるから「ティンカーベル」。確かにピーター・パンは2階の窓から入ってくる。ティンカーベルの粉を振りかけるとみんなが飛べるようになる。自由になる。とりわけ好きな物語だったりするのですかと問うと、そうでもないという。「いいかげんなもんです。名前なんか、どうでもよかったんです。」と、あっけらかん。勤め始めてからコツコツ買い集めたレコードを生かすために、喫茶室をはじめた。開店後に寄贈を受けたものも含め、現在レコード、CDをあわせるとおよそ3000枚。毎日何かしらかけている。アナログレコード



喫茶 ティンカーベル
垂水区塩屋町3丁目7-14
090-4282-4505
11:00～19:00 不定休

を真空管アンプで聴かせる。ジャズやクラシックはもちろん、リクエストにはなるべく応えられるようにしている。ときにレコードを持ち込まれる方も。例えば、棚に飾られている《奄美 徳之島民謡傑作選》のレコードは、父親の形見だが家にプレーヤーがない、ということを持ち込まれ、その方が年に1、2度聴きに來られるという。この方のように、SPやLPのレコードを持っているが、家にプレイヤーがなくて聴けない方のご利用は大歓迎。レコード1枚両面聴いて約1時間。滞在時間として長いかと聞けば、1時間程度の利用は普通で、新聞（神戸新聞数日分は常備）や本を読みに来る方、おしゃべりに花を咲かせる方など、3～4時間の滞在もあるとか。客足は昨年ようやくコロナ前ぐらいまで回復。隣の海角の開店もあり、塩屋以外の人の利用が増えた感触があるとのこと。メニューはシンプル。ブレンドコーヒー、紅茶、カルピス、ジュース各400円。パティスリーペリーヌの焼菓子とのセットは500円。ランチ等の提供はないので、お弁当を持ち込むことができる。昼食を持参した場合、お茶はサービス。のんびりした時間が流れる、2階の喫茶室は塩屋の穴場です。

塩屋 商店会

SHIOYA タイムス

昨年、SUPER BEAVERのMVのロケが塩屋であり、ティンカーベル店主もご出演されました。実は鈴木さん、現代美術家・飯川雄大さんのデコレーター・クラブという映像作品にも「出演」されています。面白いので必見↓
喫茶室の壁が一部緑色なのも「アート？」と訊かれることもあるけれど、これは、前テナントの英語塾の名残。



発行元：一般社団法人塩屋商店会 9号
神戸市垂水区塩屋町3-6-15
078-767-9408 www.nice-shioya.jp
shioya.syotenkai@gmail.com
塩屋商店会の発行する新聞です。
記事へのご意見、ご感想お待ちしております。

